

日本人対象

2025 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻

修士課程

入試案内書

博士後期課程

問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻

TEL 03-5841-6610

2025 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻
修士課程入学試験案内書

「航空宇宙工学専攻の教育・研究上の目的」

- (1) 未開拓技術の宝庫であり産業としての発展の可能性が大きい航空宇宙工学：
技術・利用面で未成熟であり将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸福のためにそれらを積極的に活用していくための研究／教育を行うこと。
- (2) 先端的技術を他分野へスピンオフする航空宇宙工学：
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究／教育を行うことにより、他の多分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指すこと。
- (3) システム統合化技術の象徴である航空宇宙工学：
航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が特に強く要求されている。その特質をいかし、航空宇宙のミッションを題材にシステムインテグレーション及びその実践的研究／教育を行うこと。

1. この案内書は、2025 年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項を補足するものである。なお、受験生は、この入試案内書の最後に掲載されている『受験者心得』を必ず熟読のこと。

2. 募集要項に記載されている通り、2025 年度の航空宇宙工学専攻の収容予定人員は、37 名である。

本専攻の試験は、TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition) 公式スコア、一般教育科目（数学）筆記試験、専門科目筆記試験と口述試験よりなる。原則として、口述試験を含むすべての科目の受験を義務づける。

注意 本専攻の修士課程入学試験を受験するためには、TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition) 公式スコアを 8 月 14 日（水） までに工学系研究科に届くように提出する必要がある。詳細は、別紙「令和 7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語(英語)試験について(TOEFL スコア提出)」を参照すること。

3. 専攻大学院入試説明会を 4 月 19 日（金）12 時 15 分よりオンラインにて実施する。詳細は専攻ホームページに掲載される。

4. 試験の日程は以下のとおりである。試験会場は 2024 年 8 月 23 日(金)午前 10 時までに工学系研究科 Web サイトに掲示する(受験者心得参照のこと)。その他の科目の試験会場は同時刻頃に航空宇宙工学専攻玄関（工学部 7 号館）に掲示する。

月 日	時間	科目	備考
8月26日(月)	8:30-11:30	専門科目	注1)
	13:00-15:30	数学	注2)
8月27日(火)	午前・午後	口述試験	注3)

注1) 専門科目筆記試験は、流体力学(流体力学、高速空気力学)・固体力学(材料力学、構造力学)・航空宇宙システム学(飛行力学、制御学)・推進工学(機械力学、熱力学、電磁気学)の合計4科目より3科目を随意選択して解答するものとする。

注2) 一般教育科目「数学」は、出題される6問から3問を随意選択して解答するものとする。

注3) 口述試験は、受験生が大学院に入学してから研究しようとする分野に関する事項および学部における卒業論文に関する事項について行う。試験時間は試験期間中に掲示する。

5. 航空宇宙工学専攻教員

航空宇宙工学専攻の教員は、本専攻の専任教員(本郷)、先端学際工学専攻、新領域創成科学研究科および宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の関係教員より成る。2024年4月現在、航空宇宙工学専攻の教員は33名であり、各教員の専門分野は、別表のとおりである。表中、* 印を付した教員は2025年3月に、**印を付した教員は2026年3月に退任の予定である。

備考

- 1) 東京大学大学院学則第11条により大学院学生は、その属する専攻の教員を指導教員としなければならない。
- 2) 別表中の所属欄の航空宇宙は本専攻の専任教員(本郷)、先学際は先端学際工学専攻、新領域は新領域創成科学研究科、先端研は先端科学技術研究センター、宇宙研は宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の略である。

6. 10月入学を希望する者は、研究室配属の際の受入れ可能教員に制限があるので、詳細について、出願前に必ず本専攻事務室に問い合わせること。

7. 指導教員は、2024年9月に合格者に対し希望調査を実施後、2024年11月末迄に決定する。尚、「東京大学安全保障輸出管理規則」に基づいて、規制されている事項に該当する場合は、希望する指導教員への配属に制限がかかる場合がある。日本国籍以外の受験生は別途配布される指導教員候補調査書を提出すること。

8. 筆記試験の際携行すべきものは、次のとおりである。

筆記用具・定規・コンパス・消しゴム・時計(計時機能だけのもの)

2025 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻
博士後期課程入学試験案内書

「航空宇宙工学専攻の教育・研究上の目的」

- (1) 未開拓技術の宝庫であり産業としての発展の可能性が大きい航空宇宙工学：
技術・利用面で未成熟であり将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸福のためにそれらを積極的に活用していくための研究／教育を行うこと。
- (2) 先端的技術を他分野へスピンオフする航空宇宙工学：
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究／教育を行うことにより、他の多分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指すこと。
- (3) システム統合化技術の象徴である航空宇宙工学：
航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が特に強く要求されている。その特質をいかし、航空宇宙のミッションを題材にシステムインテグレーション及びその実践的研究／教育を行うこと。

1. この案内書は、2025 年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項を補足するものである。なお、受験生は、この入試案内書の最後に掲載されている『受験者心得』を必ず熟読のこと。
2. 募集要項に記載されている通り、2025 年度の航空宇宙工学専攻の収容予定人員は、18 名であり、選考は第 1 次試験及び第 2 次試験より成る。
本専攻の第 1 次試験は TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition) 公式スコア、一般教育科目(数学)筆記試験、口述試験からなる。原則として、口述試験を含むすべての科目の受験を義務づける。
なお、募集要項第 3 項について、「出願日程 B」は行わない。

注意 本専攻の修士課程入学試験を受験するためには、TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition) 公式スコアを 8 月 14 日 (水) までに工学系研究科に届くように提出する必要がある。詳細は、別紙「令和 7 (2025) 年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語(英語)試験について (TOEFL スコア提出)」を参照すること。
3. 専攻大学院入試説明会を 4 月 19 日 (金) 12 時 15 分よりオンラインにて実施する。詳細は専攻ホームページに掲載される。
4. 第 1 次試験の日程は以下の通りである。試験会場は 8 月 23 日(金)午前 10 時まで
工学系研究科 web サイトに掲載する(受験者心得参照のこと)。

月 日	時間	科目	備考
8月26日(月)	13:00-15:30	数学	注1), 注2)
8月28日(水)	午後	口述試験	注3), 注4)

注1) 一般教育科目「数学」は、出題される6問から3問を随意選択して解答するものとする。

注2) 第1次試験のTOEFL®公式スコア提出および一般教育科目(数学)筆記試験は、本学の工学系研究科および新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻の修士課程を修了した者、もしくは修了見込みの者については省略する。その他の者に対しては修士課程入学試験と同一の問題を受験させる。

注3) 第1次試験の専門学術に関しては、次の4つのグループに別れて口述試験のみを行う。グループは願書に記載した志望指導教員の所属によって決まるものとする。

- A. 空 気 力 学 部 門
- B. 構 造 ・ 材 料 部 門
- C. 飛 行 力 学 ・ 制 御 部 門
- D. 原 動 機 ・ 推 進 部 門

注4) 第1次試験の口述試験は、受験生の専門領域に関する事項について行う。受験生は、修士課程での研究内容の要約をA4用紙2~4枚程度の資料として用意すること。なお、修士課程既修了者は、修士課程修了後さらに研究を行った場合には、その概要も上記資料に加えるとともに、修士論文も持参すること。試験場所、試験時間、必要資料部数などは8月26日(月)に工学部7号館ロビーに掲示するので確認すること。

5. 第2次試験は、原則として2025年1月下旬から2月中旬に専門学術に関する口述試験により行う予定である。受験生には後日通知する。

6. 航空宇宙工学専攻教員

航空宇宙工学専攻の教員は、本専攻の専任教員(本郷)、先端学際工学専攻、新領域創成科学研究科および宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の関係教員より成る。2024年4月現在、航空宇宙工学専攻の教員は33名であり、各教員の専門分野は、別表のとおりである。表中、*印を付した教員は2025年3月に、**印を付した教員は2026年3月に退任の予定である。

- 1) 備考 1) 東京大学大学院学則第11条により大学院学生は、その属する専攻の教員を指導教員としなければならない。
- 2) 別表中の所属欄の航空宇宙は本専攻の専任教員(本郷)、先学際は先端学際工

学専攻、新領域は新領域創成科学研究科、先端研は先端科学技術研究センター、宇宙研は宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の略である。

- 3) 「東京大学安全保障輸出管理規則」に基づいて、規制されている事項に該当する場合は、希望する指導教員への配属に制限がかかる場合がある。日本国籍以外の受験生は別途配布される指導教員志望調査書を提出すること。

7. 専門科目筆記試験で使用するよいものは、次のとおりである。

筆記用具・定規・コンパス・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）

2024年4月現在

航空宇宙工学専攻教員一覧表

課程担当教員

所属	職名	氏名	専門分野
航空宇宙	教授	李家賢一*	航空機設計法・航空流体力学・剥離流
〃	教授	中須賀真一**	宇宙システム工学・宇宙機の知能化・人工衛星
〃	教授	津江光洋	燃焼工学・推進工学
〃	教授	岩崎晃	宇宙利用工学・地球観測
〃	教授	小紫公也	電気推進・先端推進・電磁エネルギーシステム
〃	教授	西成活裕	非線形力学・流体弾性論・セルオートマトン
〃	教授	寺本進	回転機械・内部流体力学・数値流体力学
〃	教授	土屋武司	航空機力学・制御工学・宇宙輸送システム
〃	教授	姫野武洋	内部熱流体・宇宙推進工学・数値流体力学
〃	教授	今村太郎	航空流体力学・数値流体力学・計算空力音響学
〃	教授	横関智弘	複合材料構造力学
〃	准教授	中谷辰爾	反応性熱流体・航空宇宙推進・燃焼工学
〃	准教授	船瀬龍	宇宙機の航法誘導制御・深宇宙探査システム
〃	准教授	水口周	先進複合材料・スマート構造
〃	准教授	柳澤大地	流体力学・セルオートマトンの応用
〃	准教授	山下礼	高速流体力学・数値流体力学・ソニックブーム
〃	准教授	五十里哲	宇宙航行力学・宇宙機編隊飛行・宇宙機システム工学
〃	講師	赤嶺政仁	実験流体力学・空力音響学
〃	准教授（特任）	カーン・モハメッド・サミル*	予測・システムヘルスマネジメント
〃	准教授（特任）	樋口諒	複合材料力学・計算力学

課程担当教員

所 属	職 名	氏 名	専 門 分 野
新領域	教 授	鈴木 宏二郎	極超音速熱空気力学・月／惑星探査
〃	教 授	上 西 幸 司	材料力学・衝撃工学
〃	准教授	小 泉 宏 之	宇宙推進工学・プラズマ工学
先学際	教 授	矢 入 健 久	宇宙システムの知能化・機械学習
〃	講 師	武 石 直 也	機械学習・動的システム
先端研	教 授	伊 藤 恵 理	航空交通管理・航空輸送システム
宇宙研	教授（委嘱）	峯 杉 賢 治	飛翔体構造工学
〃	教授（委嘱）	津 田 雄 一	宇宙機システム・軌道力学・宇宙航行力学
〃	教授（委嘱）	小 川 博 之	宇宙熱流体工学
〃	教授（委嘱）	西 山 和 孝	電気推進
〃	教授（委嘱）	大 山 聖	高速空気力学・設計工学
〃	教授（委嘱）	野 中 聡	ロケットの空気力学・宇宙輸送システム
〃	教授（委嘱）	小 林 弘 明	宇宙輸送システム・推進工学・極超音速推進